

投

投資対象が値下がりして自分のお金が減ってしまうことは、誰にとっても嫌なことです。でも、毎月決まった金額分ずつ同じ商品を買ってコツコツ買い続ける積立投資なら、基準価額が低い時にたくさんの口数を買えば、高い時に少ない口数を買うことになるため、投資対象の一時的な値下がりや多くの口数を購入できないチャンスにすることができず、値下がりや味方につけられる投資法、積立投資の魅力や、実際の価格変動をもとに見てみましょう。

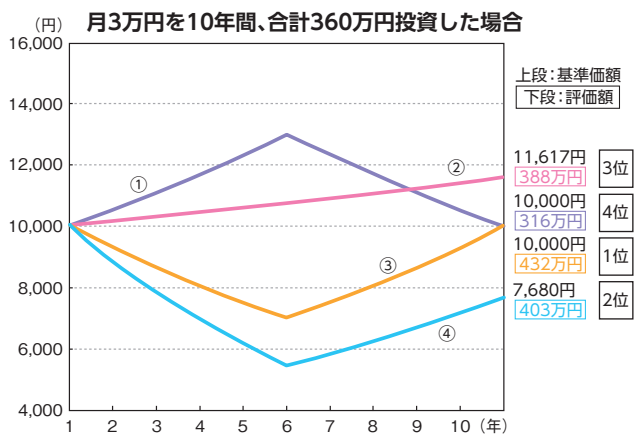
下のグラフは、値動きの異なる4つの商品に毎月3万円ずつ10年間、合計360万円を積立投資した場合のシミュレーションです。投資未経験者や投資初心者の方々の多くは、「右肩上がりに価格が上昇する②の商品が一番リターンは大きくなる」と思っているのではないのでしょうか。しかし、グラフを見ると、投資した当初は値下がりも続けて最終的に投資開始時の基準価額まで値

そうだ!

プロに聞いてみよう! —積立投資—

値下がりも味方につける投資法

『はちのマネーらいふ』最新号で取り上げるテーマを専門家に詳しく聞く当コーナー。第2回は、FPアソシエイツ&コンサルティング代表の神戸孝氏に「積立投資のメリット」について教えてもらいます。



格を戻した③の商品が、評価額432万円でも最も大きな利益を得たことがわかります。さらに注目いただきたいのは、4つの商品の中で最も値下がりしたうえに、基準価額が投資開始時の価格まで戻らなかつた④の商品が、②の商品に比べて評価額が高くなっていることです。これは、基準価額が値下がりしている間も商品を買いつけた結果、



神戸 孝氏

早稲田大学法学部卒業。三菱銀行、日興証券を経て、1999年FPアソシエイツ&コンサルティングを設立。資産運用に強いFPの第一人者として評価が高い。

安いうちに多くの口数をためられたことで、平均取得単価が下がったからです。

積立投資では、運用開始後しばらくはむしろ値下がりし、投資の終了時までには上昇するというような値動きの方が、評価額の増大にとっては有利なのです。また、ある程度値動きにブレがある商品の方が、積立投資に適していることも知っておきましょう。平成30年1月にスタートする『つみたてNISA』は、積立投資を始めた年から最大20年間で得られる利益のすべてが非課税になる制度です。投資対象の値下がりも味方につけられる積立投資で、長期的な資産形成を始めていただきたいと思います。